

H28年度普及指導活動外部評価委員会（開催日：H29年1月24日）

「評価委員からの意見」及び「次年度の活動について」

島根県農林水産部農業経営課

課題名	評価項目				次年度の普及活動の改善について
	課題設定と活動計画	普及指導活動の体制・方法	普及指導活動の成果	その他	
くにびきキャベツ産地を担う新規栽培者の確保・育成 (松江農業普及部)	<p>◆高齢化・後継者不足はどこの産地も抱える課題であり、それに取り組む対策は他産地の指針に繋がる。</p> <p>◆栽培者の高齢化・後継者不足による生産量減少を解決すべく、新規栽培者の確保・育成に取り組んでいる。野菜の万能選手であるキャベツに継続して着目していくことに可能性を感じる。</p>	<p>◆だんだん営農塾の参加料金は高額に感じたが、それを払っても学びたい人が集まる塾は、取組が積極的になるかもしれない。</p> <p>◆塾修了後、栽培農家での研修、就農時の農地賃借や機械導入支援があるとスムーズに就農しやすいと思われる。</p> <p>◆塾の実証は実際の経営規模で栽培しており、就農イメージが湧く効果的な活動と思われる。</p> <p>◆塾の修了生と、農家や関係機関との信頼関係の構築がつながりをうみ、継続性のある活動になり得る。</p> <p>◆<u>塾生、新規就農者数が減少気味であり、人数確保のために新たな取組が迫られる。</u></p>	<p>◆塾を通して、技術習得だけでなく横のつながりを確保し、修了者が相談しやすい環境で次の中心的存在になっていることは成果につながっている。</p> <p>◆新規栽培者の確保・育成は一定の成果が見られると思われる。</p>	<p>◆経営安定が確保されれば後に続く人達も出てくる。<u>今後も新しい課題を見つけ、生産者と関係機関が連携を継続して解決に取り組んでほしい。</u></p>	<p>○だんだん営農塾から新規就農した農業者について、キャベツ+補完品目（スイートコーン等）の経営確立を支援し、今後のモデルとして塾生募集につなげていく。</p> <p>○新たな補完品目については、販路の確保・拡大を支援し、推進する。</p> <p>○今後も、部会生産者、関係機関と連携し、塾の運営から就農後の相談まで一貫した支援を行う。</p>

課題名	評価項目				次年度の普及活動の改善について
	課題設定と活動計画	普及指導活動の体制・方法	普及指導活動の成果	その他	
大区画ほ場整備事業と連携した大規模集落営農組織の育成 (松江農業普及部安来支所)	<p>◆H30年からの米政策に向けてコスト低減対策の活動は必要であり、農業を取り巻く環境に対応している。</p> <p>◆新たな収益部門、多角化に対して明確な目標設定が必要だと思われる。</p> <p>◆大規模ほ場整備、地下灌漑システムで水田の高度利用が可能になる。H30年からの米政策に向けてまさにタイムリー。</p> <p>◆県内随一の大型法人による水田高度利用の実証であり、モデルとなり得る。</p> <p>◆2年3作の水田利用、大型機械による作業効率化、女性・高齢者の活用、WCSとキャベツのローテーションなどにより収益確保する目標が設定されている。</p>	<p>◆水田高度利用と生産コスト低減は効果的に支援されているが、<u>多角化に関してはもう少し具体的な活動内容を設定してほしい。</u></p> <p>◆関係機関がチームによるパッケージ的支援を行い、GAP手法も取り入れるなど効果的な支援。</p>	<p>◆目標に対する結果として、<u>フォアシステム導入後のコストや収益、今後の経費見込みなどももう少し具体的な分析が必要。</u></p> <p>◆普及対象となっている組織の生の声も聞いてみたい。</p> <p>◆2年3作の栽培技術、直播導入によるコスト低減、WCSとキャベツのローテーションなど、着実に成果が出ている。</p> <p>◆品質、収益確保に向けた技術的課題も明確で、しっかり成果と反省がむずばれている。ミニライスセンターの導入等、生産から販売までの一貫した取組で前向きさが感じられる。</p>	<p>◆今後の新しい農業スタイルに期待。</p> <p>◆可能なものから地域への波及が重要。</p> <p>◆ほぼ完成した法人であり、<u>今後は新たな取組への指導が重要となる。普及員をはじめ関係機関の資質向上が求められる。</u></p>	<p>○既設立の法人については、キャベツの栽培技術（収量）向上、アスパラガス定植に向けた土づくり等を支援し、経営確立につなげる。</p> <p>○新たに法人設立を予定する地区では、経営多角化品目の選定、試験栽培を支援し、具体的な経営計画を作成する。</p> <p>○これらの活動を通して関係機関が連携して各品目の収益、コストなどを整理し、安来地域の経営多角化の指針として検討する。</p>

課題名	評価項目				次年度の普及活動の改善について
	課題設定と活動計画	普及指導活動の体制・方法	普及指導活動の成果	その他	
畜産総合センターを核とした奥出雲和牛の振興 (雲南農業普及部)	<ul style="list-style-type: none"> ◆畜産総合センターのみならず、集落営農組織等の新たな担い手が検討対象となっており、波及効果の高い対象が選定されている。 ◆畜産総合センターを核とした畜産振興は必須の取組。喫緊かつ適切な目標が設定されている。 ◆課題の整理と言及がないため、<u>全体的に散漫で土台がない印象を受けた。</u> ◆<u>主体的に動く人、それに対する普及の立ち位置、役割がわからない。</u> ◆<u>「関係機関が一堂に会して協議する場ができた」ことは、第一段階の成果と思われる。それを系統だてて説明することで事業の向かう方向が伝えられると思われる。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ◆中長期の先を見越した活動を展開している点で、適切な時期に活動を始めている。 ◆重点支援のプロジェクトチーム設置と新たな担い手支援は今後、高い効果が期待される。 ◆プロジェクトチームを中心とした活動体制で、関係機関との連携・役割分担が明確と思われる。 ◆<u>この地域でのキャトルステーションとマザーステーションの必要性、メリット・デメリットを整理した資料・説明が必要。</u> ◆<u>牛の状態が悪くなった分析はされているか。進捗の報告が必要。</u> ◆<u>起きている事象とそれに対する仮説・分析、それを踏まえての今後の目標設定というまとめ方だとわかりやすいと思われる。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ◆新たな担い手や頭数増を確認するなど、活動の成果と今後の重点目標が詳細に分析されている。 ◆新たな担い手の誕生や頭数増を通じた意識の変化を確認できる。 ◆<u>年度ごとの目標設定は必須。事業の必要性が見えない。</u> 		<ul style="list-style-type: none"> ○畜産総合センターは、畜産農家から子牛や母牛を預かり、飼育にかかる労力を軽減することで、畜産農家の頭数増加・維持につなげることを目的としている。 ○次年度は、関係機関によるプロジェクトチームにおいて、子牛や母牛の計画的な預かり体制を協議し、預託システムとして畜産農家へ提案していく。 ○また、プロジェクトチームでは、今年度、課題となった牛の飼育管理について対策を協議しており、次年度は対策の徹底を図る。

課題名	評価項目				次年度の普及活動の改善について
	課題設定と活動計画	普及指導活動の体制・方法	普及指導活動の成果	その他	
水田農業モデルの育成 ～経営多角化をどう進めるか～ (出雲農業普及部)	<p>◆米価下落、米政策への課題として、一部の農業者は良いが、<u>県全体の農業者で考えると経営多角化だけでは厳しい。</u></p> <p>◆<u>中山間地域との比較も兼ねた普及対象の選定も必要。</u></p> <p>◆適切な成果目標だが、<u>法人であれば生産販売目標など明確な数字も必要。</u></p> <p>◆関係機関の一体化ならでは取組で、米だけでは生き残れない今の情勢に適切に対処している。</p> <p>◆水田農業の先行きが不透明な中、大・小規模の法人を選定しての将来方向を探るモデル類型づくりは時宜を得ている。波及効果は不明だが成果目標は適切。</p> <p>◆地域の状況と農業者の意向を踏まえた活動が展開されている。</p> <p>◆大・小の集落営農組織を選定し、地域振興においても波及効果の高い対象が選定されている。</p> <p>◆「リーダーの思いをしっかりと聞く」ことを第一の支援としており、今後の方向を見つける大事な部分が対応できている。従事する人の声もすくい上げる対応ができるとさらに良い</p>	<p>◆活動スケジュール、「多角化チャレンジ塾」など非常に効率的・効果的である。</p> <p>◆JA、市と連携がとれた活動体制で、役割分担もできている。</p> <p>◆目標を持つでの「成功事例に学ぶ」の調査は非常に効果的である。</p> <p>◆それぞれの組織に課題を見つけ、それに合わせた解決方法を助言している関係機関の連携あつての活動で心強い。</p> <p>◆課題を見つけるのに時間がかかり過ぎだが、関係機関による組織的な活動として経営改善策が練られており、支援内容は効果的。</p> <p>◆中長期を見据えた活動で、適切な時期に活動を始めている。</p> <p>◆コミュニケーションを土台とした合意形成を重点としており、今後の高い効果が期待される。</p> <p>◆H30年に向けて取組の全容と詳細がもう少し見えると良</p>	<p>◆成果目標は達成されているようだが、<u>わかりにくい。活動前と活動後の売上や純利益など詳細な分析が必要。</u></p> <p>◆課題解決の場づくり、役割分担の提案などにより、何をするか自ら考えたのが見える。</p> <p>◆「うまくいった」だけでは波及効果は期待されない。</p> <p>◆若い専従者の所得確保や女性・高齢者の生きがいできれば、他地域の水田農業モデルにつながる。</p> <p>◆<u>目標達成の時期が未定。中途での分析も必要ではないか。</u></p> <p>◆地域住民を巻き込んだ集落挙げての組織活動という意識の変化が見られる。集落を活性化させるという大義実現を期待したい。</p> <p>◆活動の成果と今後の目標が詳細に分析されている。</p> <p>◆対象2法人の事例はプラン策定を通じた意識の変化を確認できる。</p> <p>◆対象2法人とも「何のために」が明確で、何をするのがわかりやすく、方向ができています。</p> <p>◆A法人の女性・高齢者の楽しむプランは組織の敷居を低くし、B法人の</p>	<p>◆H30年の米政策に向けて多角化する明確な目標を掲げる取組が必要。</p> <p>◆<u>国は米の需要を増やすことを今一度考えるべきだと思われる。</u></p> <p>◆生産者にわかりやすくは一番大事なところ。真似したくなる組織づくりに大いに期待。</p> <p>◆「成功事例に学ぶ」のような客観的に「外から見て学ぶ」姿勢は大事なことです。</p> <p>◆今回のテーマでは<u>ないが米づくりの工夫やコスト低減も重要。大規模経営体では政策転換後の水田活用の道筋を総合的に示す必要がある。</u></p>	<p>○今年度、関係機関によるプロジェクトチームで、今後の水田農業モデルとなる経営体を調査・協議し、大規模、中規模、広域連携等、5類型を設定した。</p> <p>○次年度は、プロジェクトチームとさらに事例を分析するほか、コスト低減の取組み等を追加調査し、5類型の内容をとりまとめて「モデル類型及び活動ヒント集」を作成する。</p> <p>○活動ヒント集を研修会等で農業者へ提案するとともに、今後の普及・拡大の方法について検討する。</p>

	<p>と思われる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆H30 年を見据えて先手を打って課題取り組む活動はタイムリー。対象を絞ってモデル類型を明示、誘導する手法は高い波及効果が期待される。 ◆出雲地方の現状と特色を踏まえたねらい設定と課題選択がされている。 ◆目的とビジョンが明確に進むべき方向もわかりやすい。生産者にも一緒にやるメリットが伝わりやすい。 ◆関係機関との役割分担などシンプルに発表されており、聞いていてわかりやすかった。 ◆明確な成果目標が設定されており、普及活動の意義が見いだせるものがある。 	<p>い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆技術普及部との連携が密接で、各組織の強みが発揮できる体制。プロジェクト活動で他機関をリードしている。 ◆リーダーへの支援強化で組織への波及が効果的・効率的に行われている。多角化の目的をはっきりさせたことが、組織全体での取り組みになったと推察される。 ◆対象別に特性を踏まえた取組と成果の整理がとても明確だった。 	<p>役割分担による組合長の負担軽減は荷物を持ち合う感じが出ている。今後に期待。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆<u>モデル類型やヒント集は作って終わりではなく、戦略的な活用が望まれる。</u> ◆課題整理、目標設定、ビジョン実践、振り返りとまさに理想的な指導モデル。具体業務に難易度をつけて引継ぎをスムーズにする工夫も見て取れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆丁寧な状況把握、仮説設定、県ビジョンに沿った指導という本来の普及部のあり方、今後の役割を見せていただいた。 	
--	--	--	---	--	--

課題名	評価項目				次年度の普及活動の改善について
	課題設定と活動計画	普及指導活動の体制・方法	普及指導活動の成果	その他	
ファンの見える産直市をめざして (浜田農業普及部)	<ul style="list-style-type: none"> ◆産直市の新たな状況と農業者の意向を踏まえた上での普及活動が展開されている。 ◆当地域で産直市の強化は必須の取組。喫緊かつ適切な目標が設定されている。 ◆プロジェクトとして現状整理と課題の洗い出しが行われており、関係機関との連携が見て取れた。そこからの普及課題への落とし込みも的確。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆今後の経営成長を見越した活動を展開している点で、適切な時期に活動を始めている。 ◆野菜生産のみならず、加工の研修や記帳支援にも取り組んでおり、高い効果が期待できる。 ◆組織的なプロジェクト活動体制で、関係機関との連携・役割分担が明確にされている。 ◆端境期の対策はすぐに成果が出るもので、生産者も結果が目に見えるため、モチベーション維持に効果的と思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆抑制きゅうりとアスパラガスの生産戸数・面積の増加、記帳提出率の向上など、活動の成果と今後の重点目標が詳細に分析されている。 ◆生産戸数・面積の増加、記帳提出率の向上を通して、意識の変化を確認できる。 ◆重要な販売チャンネルに成長している産直市の強化により、地域への高い波及効果が期待できる。 ◆新品目の導入、記帳提出率の目標について成果が数値化されており、わかりやすかった。 ◆<u>記帳率の向上によって期待される成果、さらに今後についての具体的な説明があると、事業継続性が正当化できると思われる。</u> 		<ul style="list-style-type: none"> ○農産物の生産履歴について、生産者の記帳率向上だけでなく、講習会を通じて記帳内容の重要性について理解を深める。 ○これにより、消費者の安全・安心のニーズに対応できる体制づくりを進める。 ○生産者の年齢・売上額の分析から、今後、高齢化により産直市出荷量の減少が予想されている。 ○次年度は、産直市の中心となる生産者を絞り込んで担い手講習会を開催し、今後の産直市の安定供給に取り組んでいく。

課題名	評価項目				次年度の普及活動の改善について
	課題設定と活動計画	普及指導活動の体制・方法	普及指導活動の成果	その他	
<p>中山間地域におけるリースハウスを活用した‘しごとづくり・人づくり’ (県央農業普及部)</p>	<p>◆中山間地域の問題である人口減少、農業従事者の高齢化に適した課題設定。</p> <p>◆詳細な目標設定がされているが、<u>なぜミニトマトなのかが不明。販売先はJAか？</u></p> <p>◆農業従事者の高齢化に対して、個々では不可能な大きなプロジェクトであり、関係機関の連携なくしてできない取組である。</p> <p>◆農業や社会生活の維持に強い危機感を持つ中、関係機関が一体となって農業生産や定住人口の拡大を図るねらいは時宜を得ている。</p> <p>◆H30年の米政策以降のモデルとなり得る経営で、新たな雇用を生み出すなど適切な目標となっている。年次ごとの段階的な計画もすばらしい。</p> <p>◆町における園芸事業の強化は必須の取組であり、喫緊かつ適切な目標が設定されている。</p> <p>◆課題名のテーマが感じられる内容だが、<u>地域の課題である農業従事者の高齢化、担い手不足などの対応も並行して行う必要がある。</u></p>	<p>◆的確な「リースハウス計画」の策定、定期的な関係機関の会議など支援は効果的。</p> <p>◆リースハウスと島根型養液システムの導入は若い人たちにとって取り組みたい魅力に溢れている。</p> <p>◆入植する法人に対して、関係機関による定期的な検討会、指導、助言などこれからも濃密指導を期待する。</p> <p>◆計画策定から実行まで、一貫して関係機関で支援するなど、組織的な活動体制となっている。</p> <p>◆今回は1経営体を対象とした活動が主体だが、<u>面的な広がりには定住所管機関や生産組織などと連携する体制づくりが必要。</u></p> <p>◆関係機関は町、JAと推察されるが、<u>組織体制が不明瞭で、役割分担が不明。</u></p> <p>◆中長期を見据えた活動で、適切な時期に活動を始めている。</p>	<p>◆<u>売上500万円達成について、もう少し詳細な分析が重要。生産販売目標は達成できているか。</u></p> <p>◆今後、利益を上げながら安定生産できるか期待。成功事例となれば波及効果が高いと思われる。</p> <p>◆浸水被害などの問題点にも構成員で前向きに取り組み、所得向上に繋がったことは大きな成果。</p> <p>◆リースハウス団地という中期計画に基づき、成果と反省が次のステップに活かされている。</p> <p>◆問題はありながらも初年度5,000千円の売上。次年度は当然ながら対象者の意識は前向きになる。将来の団地化に向けて波及の可能性は高い。</p> <p>◆活動成果と今後の重点目標が詳細に分析されている。</p> <p>◆新たな就業・雇用を通じた意識の変化を確認することができる。</p> <p>◆初年度の売上5,000千円の達成が、新たな農業従事者の発掘や地域活性化につながる。関係機関での定期的な検討や活動発信の継続が大切。</p> <p>◆園芸品目の拡大だけでなく、<u>団地整備計画を達成するための入植者の確</u></p>	<p>◆条件不利な中山間地域の農業に対して、このような普及活動が特に島根県では必要。</p> <p>◆継続中のリースハウス導入をしっかりと成功に導くことで新たな担い手が育つ。</p> <p>◆<u>ハウスは大雪被害も予想されるので対策もしっかり立てる必要がある。</u></p> <p>◆関係者の資質向上なくして、大きな目標達成は見込めない。農業を通しての定住や町の活性化という壮大な計画にエールを送りたい。</p> <p>◆<u>入植者確保に向けて、先行事例の施設を研修の場に活用することは考え</u></p>	<p>○次年度、新たに1法人がリースハウスで生産を開始することから、まずはこの収量・収益の確保に向けて栽培支援を行う。</p> <p>○ミニトマトはJAの振興品目であり、集出荷・調整作業の省力化が図られ、収益性も安定している品目として今後も推進する。</p> <p>○今後、本格的な整備が計画されており、雇用拡大も見込んでいるため、参入者の栽培・経営確立を支援するとともに、リースハウス団地での人材確保が定住につながるよう町と連携していく。</p>

	<p>◆<u>町主導のリースハウス団地という大きな全体計画の中で一部が完了した段階。定住はさらに大きな課題であるため、これに向かうのであれば、これを見据えた活動方法を考える必要がある。</u></p> <p>◆<u>人口減少の現状からリースハウス事業に至る経緯、課題設定のプロセスがいまいち伝わらなかった。もう少し掘り下げると必要性が伝わる。</u></p> <p>◆<u>支援対象の選定理由がわからないため、波及効果は不明。</u></p>	<p>◆<u>高額負担を軽減するリースハウスの活用は今後の高い効果が期待される。</u></p>	<p><u>保や生産物の出口対策など具体化することも重要。</u></p> <p>◆<u>目標設定されておらず、事業の成果がわからなかった。定住人口増加なのか、ミニトマトの収穫量アップなのか。取り組んだ結果説明との印象。</u></p>	<p><u>られないか。</u></p> <p>◆<u>プレゼンの的の絞込みがいまいだと伝わりにくくなる。</u></p>	
--	---	--	--	---	--

課題名	評価項目				次年度の普及活動の改善について
	課題設定と活動計画	普及指導活動の体制・方法	普及指導活動の成果	その他	
先進技術の導入と‘美味しまね認証’取得によるメロン産地の活性化 (県央農業普及部大田支所)	<p>◆産地全体を普及対象としており、波及効果が期待される。</p> <p>◆トロ箱栽培の安定生産とICT化は必須の取組。喫緊かつ適切な目標が設定されている。</p> <p>◆<u>これまでの農業振興施策から、説明のあった諸々は想定内の環境変化。さらに踏み込んだ分析と目標設定が必要。</u></p> <p>◆GAPがきっかけとなり、結果、意識の高い生産者の声に寄り添い、具体化したすばらしい支援活動と思われる。</p>	<p>◆トロ箱栽培に課題が生じた時点で、適切な時期に活動を始めていられると思われる。</p> <p>◆支援内容の重点は農業者のニーズを十分に踏まえており、高い効果が期待できる。</p> <p>◆<u>支援がマニュアル配付のみでないことを願う。</u></p> <p>◆タブレット導入により効率的な指導が可能となり、対応スピードが向上したことは成果。</p> <p>◆在宅Uターン後継者への支援はとてもうれしいこと。新規UIターン者への支援ばかりであることを問題とっていた。これこそ地元の底支えにつながる取組。</p>	<p>◆新たな担い手を詳細に確認するなど、活動の成果と今後の重点目標が詳細に分析されている。</p> <p>◆安定生産による経営改善を確認した上で、栽培意欲の醸成等と通じた意識の変化を確認できる。</p> <p>◆メロン産地の活性化により地域への高い波及効果が期待される。</p> <p>◆定性目標だけでなく、定数目標の設定とその振り返りにおいても、とても重要なプロセスだと思われる。</p>	<p>◆<u>PDCAサイクルに基づいて発表を組み立てると、もっとわかりやすくなると思われる。</u></p>	<p>○美味しまね認証（団体認証）取得による生産者の組織活動を契機にして、産地ビジョンの再構築と具体的な行動計画が検討されるよう支援する。</p> <p>○新規就農者については、タブレットを活用して重点的に栽培支援を行い、産地のモデル農家として育成する。</p>

課題名	評価項目				次年度の普及活動の改善について
	課題設定と活動計画	普及指導活動の体制・方法	普及指導活動の成果	その他	
津和野町の山菜生産振興と新たな担い手の確保 (益田農業普及部)	<ul style="list-style-type: none"> ◆中山間地ならではの山菜を取り入れた栽培は他の野菜とは違った魅力を感じる。 ◆先駆者であるリーダーを関係機関が連携して支え、生産組合が設立されたのは評価できる。 ◆タラの芽生産組合と関係機関の支援がうまくかみ合った事例と感じる。 ◆生産者育成のための栽培マニュアルづくりは、新規就農者への説明資料としても有効と思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆山菜の栽培マニュアルは未知のもので、作成は普及部のネットワークの賜物。貴重な資料。 ◆県外からの新規就農者に指導農業者が積極的に研修していることは模範的活動。 ◆県外からの新規就農者確保に力を入れ、経営開始への指導や管理が徹底されているように思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆新規就農者が山菜に積極的に取り組み、出荷量と販売額が増加する好結果も出ており、新しい人も参入しやすい。 ◆若手U I ターン農業者の経営事例から、複数品目の生産を担い、年間通した収入確保を目指す活動ができていていると思われる。 ◆この結果の発信により、波及効果が期待できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆農薬を必要としない、他では簡単に真似のできない作物であり、管内の普及にも弾みがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○山菜は、冬季に収入があることから、地域の複合経営品目に位置づけられており、新規就農者も経営に取り入れる重要品目となっている。 ○今後、生産者の栽培技術向上、販売体制強化を支援し、さらに新規就農者の受入れに対応できるよう、生産者・市場・行政が一体となって産地づくりを行う。

課題名	評 価 項 目				次年度の普及活動の改善について
	課題設定と活動計画	普及指導活動の体制・方法	普及指導活動の成果	その他	
放牧を中心とした肉用牛生産拡大の取り組み (隠岐農政・普及部)	◆公共牧野での放牧という隠岐地方ならではの地域課題を重点的に取り上げることが適切で活動内容もよくわかる。	◆活動対象や課題が絞られており、集中した活動ができている。普及対象や関係機関との距離感が近く、一体的な取組となっている。	◆飼養頭数の増加は驚異的。勢いのあるうちに購買者対策や産地アピールなど情報発信を強めることも必要。	◆ <u>参入企業を核に若手担い手の人材育成など、目指すべき産地の展望を具体的に示してはどうか。</u>	○今年度の実証でシバ型草地の効果が確認できたことから、次年度は4カ所の公共牧野で取り組みを実施する。 ○また、自給飼料対策として取り組む稲WCSについて、今後の面積拡大に向けて支援する。 ○さらに、参入企業について、牛の頭数増加、研修受入れのしくみづくりを支援し、これが地域の畜産振興につながるよう取り組む。

課題名	評価項目				次年度の普及活動の改善について
	課題設定と活動計画	普及指導活動の体制・方法	普及指導活動の成果	その他	
「つや姫」の品質向上と生産拡大 (技術普及部)	<p>◆近年の温暖化により「つや姫」など高温登熟性に優れた品種の拡大は重要だが、<u>生産者の立場で考えると、波及効果は価格と需要次第と思われる。今まで推進してきた「きぬむすめ」との比較も重要。</u></p> <p>◆波及効果は今後のJAの緩和次第。</p> <p>◆品質低下のコシヒカリに替わる有望品種として、「つや姫」の品質の<u>高位安定と生産拡大が喫緊の課題。</u></p> <p>◆先導的な生産者を「つや姫マイスター」に認定し、関係機関が一体となって取り組んでいる。</p>	<p>◆活動時期や支援内容、組織体制ともにJAと連携がとれている。</p> <p>◆「<u>食べておいしい調査</u>」は調査機関や調査対象が不明。</p> <p>◆<u>1.9 ミリ選別は、正確な検証結果が必要。本当に食味が向上するのか。生産者の立場で考えると、数量や収入が減り、品質だけ向上しても難しいと感じた。これまでの1.85 ミリ選別、色彩選別との比較も必要。</u></p> <p>◆「栽培手引き」を基にした定期的な「栽培管理情報」の発行、現地講習会を通して、栽培に関する情報の共有や技術の平準化が図られている。</p>	<p>◆<u>成果目標の達成要因は分析してあるが、データには疑問を感じた。品質、食味、収益などももう少し詳細なデータが必要。</u></p> <p>◆<u>コシヒカリとの比較はJAデータなのか。比較には同一条件のほ場で正確に分析が必要と思われる。</u></p> <p>◆<u>1等米比率の向上、タンパク含有率の低減、食味向上などとりあえずの成果は現れている。</u></p> <p>◆「つや姫マイスター」は、新たな「島根ブランド米」の地域代表として自分のこととして取り組み、地域へ波及を行っている。</p>	<p>◆<u>発展には新たなチャレンジが必要だが、一番大切なものを忘れがちになる。確立した島根ブランドが必要。</u></p> <p>◆<u>つや姫の1等米比率は熟練農家の数値であり、単純にコシヒカリ全体の1等米比率と比較すべきでない。</u></p> <p>◆<u>山形産つや姫との同質競合はあり得ず、価格的に下を潜った立ち位置で販売戦略の策定が重要。</u></p>	<p>○つや姫の品質向上については、研究部門で検討した技術を「つや姫マイスター」のほ場で実践して地域への普及を図る。</p> <p>○1等米比率については、面積拡大の状況に合わせて関係団体と比較方法を検討する。</p> <p>○1.9 ミリ選別については、研究部門と連携してさらに試験データを蓄積・分析し、収量レベルも考慮した栽培技術をとりとまとめ、栽培手引きを改訂する。</p> <p>○生産・販売方針については、関係団体、県庁担当課とは定期的に協議を行っており、引き続き連携して検討していく。</p>

課題名	評価項目				次年度の普及活動の改善について
	課題設定と活動計画	普及指導活動の体制・方法	普及指導活動の成果	その他	
優良系統デラウェアの導入推進 (技術普及部)	◆研究部門が開発した県独自技術を現場で使える技術に仕立てており、大きな成果が期待できる革新的な取組。成果発現への道筋も明確。	◆技術課題の解決をメインテーマにしているが、今後の産地再生に向けては販売戦略やPR手法などの課題もあると思われる。幅広い機関との連携が必要。	◆当面の成果は達成されており、息の長い活動によって大きな成果が出る可能性を感じる。	◆ <u>先行農家のネットワーク化や技術検討会への参画など、普及拡大のために生産者との連携は考えられないか。</u>	○出雲農業普及部と連携し、月1回、優良系統デラウェアの生産者を対象に研修会行う計画としている。 この研修会が栽培者の交流、技術検討の場となるよう内容を検討していく。

課題名	評価項目				次年度の普及活動の改善について
	課題設定と活動計画	普及指導活動の体制・方法	普及指導活動の成果	その他	
障がい者も一役、みんなで取り組む産地づくり (技術普及部)	◆関心が高まりつつある「農福連携」の先進的取組。研究機関、福祉施設、若手ブドウ生産者をつなぐ施設外就労の新しいしくみづくりと言えほどの活動で、質は高い。	◆生産者側からの請負契約拡大や、農林大学校での人材育成講座の新規開設につながるなど、効果的な活動ができている。	◆現状はブドウ振興関連の課題設定であるが、多品目も含めて単独の課題として体系化を目指す手法もあると思われる。	◆ <u>直接的な対象が生産者でないため、これまでと異なる質の活動であるが、継続した活動が望まれる。</u>	○まずは、ぶどう産地で地域の農福連携のモデルづくりを目指す。 ○農福の関係機関で構成する「出雲圏域農福連携推進協議会」の活動を支援するとともに、農福連携に取り組むぶどう農家の経営調査を行う。